

アメリカの学生担当職員養成教育の性格

—標準化への取り組みにみる—

保坂 雅子

(2001年9月28日受理)

The Analysis of Preparation Education for Professionals of Student Affairs in the U.S.

Masako Hosaka

The Student Affairs professionals in the U.S. have had a special graduate preparation program since early twentieth century and expanded them in 1960s. The author believes that we can understand the nature of professionals of Student Affairs through the history of the standardization of preparation program. The purposes of this article are the following: to describe how the character of preparation education was developed before the expansion in 1960s when the standards became a very important issue, to discuss how two different groups had a different view of preparation, and to examine what student affairs staff developed through the effort at standardization of preparation program.

Keywords : Professional Development, Preparation Education, Professionals of Student Affairs

キーワード: 専門職開発, 養成教育, 学生担当職員

1. 始めに

近年, わが国でも大学職員の能力開発に強い関心が持たれており, この動きは大学院教育課程の設置へと具体化している。だが, 分野毎に必要な能力の違いや, 養成の対象に関しては, これから議論を深めていく段階にあるといえる。

さて, 大学職員の専門職化が進んでいるアメリカでは, 大学職員の能力開発は, 専門職団体で行われる現職教育を中心として, これに大学院教育を追加的に活用することによって行われている (McDade, 1987)。中でも, 学生担当職員¹の場合, 資格制度が整備されていない等の点で専門的職業としての条件²を全て満たしているとは言えないが, 養成教育は能力開発において重要な一部と位置づけられており³, 学生サービス専攻での修士号が採用に当たって必要とされることが多い。

ところでLarson(1983)によれば, 養成教育の標準化は, 基準認定が資格制度と直接的に結びついていない場合でも, 異なる課程間でのカリキュラム及び学位要件を類似化し, 卒業生の一定の職務遂行能力を社会に

対して保証する上で必要なものである。また, 基準認定には教育課程の教員が責任を負うが, 実践家も, 専門職団体を通して基準認定の決定, 政策形成とともに標準の設定に関して大きな影響力を及ぼす(Larson, *ibid.*)。よって, 標準化は職業集団による職務内容や能力に関する詳細な分析・検討を要するといえ, その職業集団が専門職化する上で避けられないステップとなっているといえよう。

専門職化を目指す他の職業集団と同様に, 学生担当職員はこれまで養成教育の標準化に強い関心を持ってきた⁴。それは, 専門職組織である高等教育機関の一員として教員や管理職と対等な地位を獲得するために専門職化が必要であり, 養成教育はそのための有効な手段だからである。

筆者は, 学生担当職員の養成教育標準化の考察を通じて, 必要な能力や能力開発における養成教育の役割が明らかになり, 更には学生担当職員のアイデンティティ理解へとつながると考える。本稿では, 1960-1970年代前半に行われた養成教育の標準化に関する議論と取り組みに即し, 主に教育の基盤と学生担当職員

像の形成との関係に注目し、以下の3点について順次検討していくことにする。

第1に、養成教育の標準化が課題となった1960年代までに、学生担当職員の養成教育がどのような性格のものとして発展してきたかという点である。第2に、養成教育の標準化に取り組んだ学生担当職員の構成は、いかに異なる思想を持ち、標準化を巡って対立していたかという点である。第3に、標準化への取り組みを通して、どのような学生担当職員像が明らかになり、養成教育がそこでの役割を与えられたのかを扱う。

2. 学生担当職員の養成教育の発展過程

(1) 第2次世界大戦以前の状況

学生担当職員の起源は、19世紀末に登場した男子・女子学生部長(dean of men/ dean of women)である⁵。当時、ドイツ高等教育の影響を受け、研究志向が強まった教員の負担を減らすため、学生の問題を解決し、規律を監督する学生部長が男女別に置かれた。教員出身者を中心とする学生部長には、訓育者としての役割が期待されていた。

その後、学生生活の活発化による職務増大に伴い学生サービス管理職員(student services administrator)が、そして1920年代に入ってからテストやカウンセリングを用いたガイダンス・指導業務(guidance and personnel work)運動の下、心理学や教育学の学位を持つ所謂カウンセラー⁶が学生担当職員の仲間入りをした。

当時のカウンセラー教育は、職場環境を問わずに行われていた。そんな中、大学レベルでのカウンセラー養成を目的として、1913年、コロンビア大学ティーチャーズカレッジに最初の「女子学生部長・アドバイザー専攻」課程ができたことは画期的なことであった(Young, 1993)。同専攻は、1928年からは「学生サービス管理専攻」としてより幅広い職員の養成を目指すものとなった。だが、このような学生担当職員だけを対象とした養成教育は戦後まで本格的にならなかった。

むしろ、戦前の学生担当職員の能力開発は、共通の問題や関心を話し合うことが中心であった(Young, 1993)。早くも20世紀に入ると、このような話し合いの場として、学生部長の団体であるNational Association of Deans of Women (NADW)(1916-1956)⁷、National Association of Deans and Advisors of Men (NADAM)(1919-1951)⁸、現在、最も包括的な学生担当職員の団体となっているAmerican College Personnel Association(ACPA)の前身であるNational Association of Appointment Secretaries(1925-1931)や、

American Association of Collegiate Registrars (AACRAO)(1910-)、Association of College Unions (ACU)(1914-)といった職務分野毎の専門職団体が設立された。1934年には、ACPAとNADWは、National Vocational Guidance Association(NGVA)(1913-)を中心とするカウンセラーの緩やかな協議会に参加し、職場環境の違いを越えてカウンセラーとしての専門職意識を形成した。

1937年になると、学生担当職員の発展に大きな影響を与えることになるThe Student Personnel Point of View(Point of View)がAmerican Council on Educationにより出され、学生の個性を重視し、全人教育を行うという、教員とも管理職とも違う独自の学生担当職員像が提示された。それと同時に、学生生活や住居等23の具体的な職務分野も挙げられた。このことは、学生担当職員を家事的な職務を行うものとして理解するきっかけともなり(Penney, 1969)、その後の二面的な学生担当職員像の形成に影響を与えていく。

(2) 第2次世界大戦以後の状況

① 養成教育の発展

1944年の復員軍人援護法の制定を契機として始まった高等教育の拡大の中で、学生サービス部門はレジデンスの建設を始めとして特に拡大した部門であった。これに伴い、能力開発への関心も学生担当職員全般へと広がることになる。

戦後、人格カウンセリングを行う者はカウンセリング心理士(counseling psychologists)という名称を用い、急速に専門職化を進めていた。1951年、心理士の専門職団体American Psychological Association (APA)のガイダンス・カウンセリング部門は、カウンセリング心理士部門となり、会員に博士号を要求して他のカウンセラーとの違いを強調するようになった(Super, 1955)。

一方、教育・職業カウンセリングを行う者もこれに触発され、1951年にカウンセラーの協議会を解散して、専門職団体American Personnel Guidance Association(APGA)を設立し、カウンセリング心理士の指導の下で専門職化を目指し始めた⁹。ACPAも設立当初からAPGAに参加した4部門の1つであった。

学生担当職員全体での専門職化は当時まだ現実的な話ではなかったが(Wrenn & Darley, 1949)、カウンセリングが学生サービスの基礎であると考えられていたため、カウンセラー教育と同様に、学生担当職員の養成教育にとっても心理学が基盤であるとされた¹⁰。そのため、ACPAによる養成教育モデルでも、心理学を中心とする共通のコアが提示された(Anderson,

1948)。

もちろん、学生部長や学生サービス管理職員も、教育学や心理学の学習の必要性は認識していたが、彼らの多くは学問分野での学位を持つ教員出身者であり、パートタイムでしか学生サービスに関わらないことも多く、カウンセリングや学生サービスといった専門分野で学位を取得することは稀であった(Houston, 1949)。そのため、養成教育の利用は自主的なものに止まり、学生担当職員全体に専門分野での学位取得を求めて資格制度を整備するまでには至らず、能力開発の中心は現職教育やインターンシップであった。

② 養成教育への実践経験の導入

それでも、養成教育の利用が次第に一般的になるにつれ、職務分野毎の能力開発には、学生サービス部門での実践経験が役立つと考えられるようになり、これが分野を問わず広く導入されることとなる。

現場での実践経験は、レジデンス助手としての大学院生の活用に典型的に見られたが、それは教育上の理由からだけではなく、学生サービス部門での職員需要に応えるために行われた。例えばオハイオ州立大学では、1953年度から女子学生部長の主導で「学生部長・カウンセラー専攻」の学生をレジデンスのパートタイム職員として活用し始めた(Sawyer, 1970)。同大学の場合、新レジデンスの建設に先立ち、専門的に養成された職員を採用したいという学生サービス部門の意向が強く働き、これに応える形で大学院教育と労働とが結びついていた。

このような養成教育での実践経験の活用は、うっかりすると評価を伴わない単なる補助的労働の提供になりかねず、Williamson(1958)等の教育者は複数箇所での実践経験や批判的評価を伴うカリキュラムへの有機的統合を強く求めた。

戦後、能力開発の場として利用されるようになった学生担当職員の養成教育の性格としては、次の2点が指摘できるだろう。その1つは、カウンセラー教育の枠内に能力開発の議論が限定されたこと、もう1つはそれによって生じた限界が職務分野毎の現場での実践経験によって補完された点である。このような性格は、1960年代の養成教育の標準化に関する議論において、理論的基盤を欠くとの批判を生むことにつながるものであった。

3. 標準化の要求

(1) 養成教育の問題の顕在化

学生担当職員の需要に支えられ、教育課程の設置は

1960年代に入っても拡大する一方であった(表1参照)。だがその質はといえば、緩やかな入学要件しか持たず、現場での職務経験を主とした速成教育を行うものから、長期にわたる総合的な大学院課程までまちまちであった。

表1：学生担当職員養成教育課程設置数の推移

	1945 以前	1946- 1950	1951- 1955	1956- 1960	1961- 1965	1966- 1970
設置プログラム数*	2	6	2	3	16	23

出典: Tracy, 1971

この頃になると、さすがに実践経験だけでなく教育基盤への関心も高まり、カウンセリング一辺倒の養成教育を再検討する動きがでてきた(Parker, 1966)。Hoyt & Tripp (1967)の調査によれば、学生担当職員の仕事の大部分は事務管理的性格のものになっており、専門分化に伴って新しく生まれた職務分野の中には特殊な法律や政策に関する知識が必要なものもあった。また、学生層の急激な変化は従来拠り所にしてきた親代わりとしての学生担当職員像の転換を求め、高等教育機関における学生担当職員のアイデンティティの再構築が大きな課題となっていた。

ここにきて養成教育は、教育者だけでなく実践家も含めた普遍的問題となり、養成教育に対して異なる思想に立つ職業集団内部での活発な議論が開始されることになったのである。

(2) 養成教育への異なる思想

実践家の中でも、とりわけ職員を採用する立場にある管理職の団体NASPA¹⁾は、学生担当職員の能力開発に対して強い関心を示すようになっていた。NASPAは、当時盛んになりつつあった高等教育研究の進展にも支えられ、既に1950年代からは、財団からの援助を受けて管理職向けセミナーを開いたり、養成教育における高等教育や経営学といった社会科学の役割を検討したりしていた(Barry & Wolf, 1957; Parker, 1966)。

学生担当職員の団体の間では、1950年代半ばからワークショップや合同会議等を重ね、唯一の専門職団体の設立による統合を目指すようになっていた。標準化への関心は、NASPA, NAWDC, ACPA, AACRAOといった古参の団体が中心となり、専門分化により分裂が進む学生担当職員像を能力開発の場である養成教育レベルで統合しようとするものでもあったのだ。そして遂に、1963年、これらの団体によって1958年に作られていた団体間調整委員会を母体として学生担当職員の専門職団体から構成される評議会 Council of Student Personnel Associations in Higher Education (COSPA)が設置されたのである。

COSPAは、能力開発コミッションを設け、1964年に *A Proposal for Professional Preparation in College Personnel Work(Proposal)* を発表する¹²。実践家による養成教育への提案は意義深いものであったが、標準化は教育者の手から離れた訳ではなかった。

カウンセラーの団体であるAPGAでは、教育者を中心とする Association of Counselor Educators and Supervisors (ACES) が率先してカウンセラー教育の基準認定を目指しており、学生担当職員の養成教育の質も大きな関心事であった。*Proposal* が出された1964年、APGAは「カウンセラーは専門を問わず2年間の大学院教育で共通のコアを学ぶべきである」との意見文書を出した。これにより政府や大学の需要を背景に急増していた短期間で行われる特殊化した教育課程として、学生担当職員養成教育課程の多くも批判にさらされることとなった¹³。

APGAは、*Proposal* をそのまま受け入れることはせず、1965年、学生担当職員の養成教育検討委員会として ACPA、ACES、Student Personnel Association for Teacher Education (SPATE) からなる3部門委員会を設置し、独自の立場を文書により表明した。これにより、学生担当職員の養成教育に関する2つの異なる立場が表明された。

1966年4月のACPAの理事会で、「責任と権威の分野」や「目的と機能」、「カリキュラムと養成教育」に関し、3部門委員会の文書は *Proposal* とともに、両者の調整役となった ACPA 専門職教育コミッション作成の文書とも大きな違いはないと判断された。これを受け、APGA 3部門委員会の文書は ACPA の文書の方を補足する形で修正され、*The Role and Preparation of Student Personnel Workers in Institutions of Higher Learning(Role & preparation)* として正式に出された。

その後1968年になって、COSPAは養成教育の指針として、*Guidelines for Graduate Programs in the Preparation of Student Personnel Workers in Higher Education(Guidelines)* を完成させた。*Guidelines* は、APGAからも *Proposal* や *Role & preparation* より前進したものと見なされたにも関わらず、当初意図していた標準の設定にはつながらず、真の意味で養成教育の基準認定を進めることはできなかった。そこには調整を不可能とする違いがあったと想像できるのだが、それはどれほど大きいものであったのだろうか。

次節では、両者の養成教育の標準への思想を反映する2文書の検討を通して、実践家を中心とする学生担当職員の間で養成教育がどう捉えられるようになっていったのか、明らかにしていくことにする。

4. 標準化の実態

(1) 標準化への異なる思想

Role & preparation では、2年間の修士課程で8分野からなる共通の知識と経験のコアを学ぶことが求められていた(表2参照)。*Proposal* とともに合意していた「心理学と社会学に焦点を当てた行動科学に基礎をおく」、「人間発達・大学生・大学文化の基本的理解と同様、高等教育の原則・哲学・管理を理解する」、「公式な授業科目・実践・インターンシップ経験を通して学生サービスを理解する」、「カウンセリング・検査・研究方法といった「道具」科目における養成が不可欠」の4点と ACPA が強調した「研究・評価」は、*Role & preparation* にも表されている。

ところが、*Proposal* での職務分野別のコアに関する詳細な説明の提案は、「本質的分野」において分野名を例示するにとどめられ、COSPA の職務分野の専門性を重視する思想は生かされていない。

一方 *Guidelines* も、学習分野に関する限り、社会科学の科目を含めてより幅広い科目が具体的に例示されている点(表2参照)を除き *Role & preparation* との間に大きな違いはなく、かなり APGA の考えるものに近くなっている。

だが、*Guidelines* は以下の点で明らかに *Role & preparation* とは異なっていた。第1に、「知識とスキルの統合」に位置づけられていた実践経験を学習分野から独立させ、カリキュラムを構成する柱である「監督下の経験」としてより重きを置くことになった。加えて、「特殊化された分野における養成」では科目名こそ列記しなかったが、*Proposal* 又は職務分野毎の専門職団体が提案する内容を学ぶこととして、職務分野に必要な知識やスキルこそが学生担当職員の専門性であり、それを養成教育で学ぶべきとの思想を示した。

第2に、カリキュラムの計画・実施・評価・研究、実践経験の提供、現職教育の場の3点に関して、養成教育課程とそれが置かれた大学の学生サービス部門との密接な関係を強調している。大学の協力の下、その大学に固有の必要性に基づいた能力開発を行うという、機関を基礎とした養成教育の個別化は、専門職教育としての性格を強調していた *Role & preparation* には見られないものであった。

以上のように *Guidelines* は、職務分野毎の専門職団体から構成され、機関の文脈を重視しがちな管理職の観点をもつ COSPA の性格をよく反映して実践経験や大学毎の事情を重視しており、学生担当職員の能力観に関する両者の違いは決して小さくなかったといえよう。

表2 : *Guidelines* (1968) と *Role & preparation* (1967) に現れた学習内容の対照表

<i>Guideline</i> (1968)	<i>Role & preparation</i> (1967)
高等教育における学生サービス 歴史、哲学、目的、組織と管理、倫理とスタンダード、学生の役割と権利、現在の法的・社会的問題、規律。それに加えてアドミッション(等)の専門分野の概要	(専門)分野への適応指導 学生サービス入門, 高等教育における学生サービスプログラム
社会的機関としての高等教育 中等後教育教育のコンテキスト、環境、歴史、哲学、目的。組織、管理、カリキュラムに関する問題	高等教育の文脈と環境 高等教育の歴史, 高等教育の社会学, 高等教育の哲学, 高等教育の目的と政策, 高等教育の組織と管理
人間の成長と発達 人類学、心理学、社会学といった学問分野から取った、青年後期及び若い成人としての大学生の性格とニーズに焦点を当てた幅広い理解	人間発達と大学生の性質及びニーズ 人間発達, 青年と成人, 青年後期と若い成人の心理学, 大学生の社会心理学, 文化とパーソナリティ
社会文化的基礎 社会文化的変化の研究、都市社会、人口のパターン、余暇の利用、文化的習慣、男性女性の異なる人生パターン。行動科学、経済学、政治学を含む	学生サービス実践のための複数の学問的基盤 教育と社会, 教育の社会的基盤, 人類学と教育, 人間の諸視点, 変化する社会における経済学理論, 西洋思想史, 社会過程と組織, 家族
学生担当職員によって用いられる方法、技術、概念 カウンセリング、集団力学、人間関係、意思決定、財政管理、選抜、現職教育とコミュニケーション	方法と技術 大学生カウンセリング, カウンセリングの原則とテクニック, カウンセリング理論, (学生サービスの職務分野における)実践科目, 集団力学
研究と評価 統計学、研究方法、テストと測定、個別研究、研究と研究の応用	研究と評価 一般的科目
特殊化された分野における養成 COSPA の <i>Proposal</i> 、もしくはその分野を代表している全国的な団体によって勧められている主題・題材・内容を含むべきである	本質的分野
監督下での経験 実験室・実践経験・インターンシップ	知識とスキルの統合 学生サービスに関するセミナー, 監督下での観察, フィールドワークもしくはインターンシップ

注: *Guidelines* 及び *Role & preparation* より筆者が作成。

(2) 標準化挫折の背景

結局のところ、両者の違いは調整されず、標準化は挫折してしまった。その理由としては、カウンセラー主導の基準認定への学生担当職員の抵抗が考えられる。初等中等学校と異なり、大学カウンセラーの養成教育の基準認定は、今後の学生サービスの発展を考えると時期尚早であるというのがACPAの判断でもあった¹⁴。だが、学生担当職員内部での分裂状況が標準化の挫折には大きく影響していたこともまた事実である。

学生経済援助や学生活動の分野での専門職団体が設立されたことに象徴されるように、Guidelinesが出された1968年には専門分化はまさに進行中であった。急激に存在感を増しつつあった新しい分野の実践家は、眼前の課題に応えるため短期間での実務的な訓練を求めており、そもそもRole & preparationやGuidelinesで示された学問分野の学習には無関心であった¹⁵。

更に、養成教育に関する議論は学生担当職員の間で広く共有されておらず、リーダー達と一般の実践家の間では微妙に認識のずれがあった。実際、一般には心理学やカウンセリングの科目は依然として重要だと考えられていたのに対し、逆に高等教育の科目はそれほど重要であるとは考えられていなかったのである(O'Banion, 1969)。

標準設定において、両者の違いは明らかであったが、学生担当職員はカウンセラー教育の枠組みから離れることができず、関連する学問分野の寄せ集めを提示する以上のことはできなかった。こうして、養成教育の標準化への試みは、一旦挫折という形で収束することになった。

(3) その後の標準化への布石

その後、COSPAは一旦養成教育の標準化から離れ、学生担当職員に共通する職務内容や求められる能力の検討に入る。それにより、養成教育のあり方を検討し直そうというのであった。

COSPAは、1968年よりACPAが始めた『明日の高等教育計画』の影響を受け、1975年にStudent Development Services in Post-secondary Educationを出し、その後の養成教育の標準化を方向づけることになる。ここでは、学生担当職員は「教育過程の専門家」として捉えられ、「相談・教育・管理」の3つの機能とその遂行に必要な「目標設定・アセスメント・学生発達のための戦略」という3つの能力が設定された。

その上で、養成教育は「強調、連続性、方法は課程によって多様かもしれないが、各々が優れた専門家を養成できる」として焦点の多様性を肯定し、あえて特

定の学問分野を挙げなかった。また、大学院での養成教育に対し、卒業生が働く各職務分野からのフィードバックの必要性を指摘し、職務分野の専門家を養成するという点においての養成教育の有用性を強調した。

このような現実路線は、ACPAとNASPAの協力により1981年に設立された協議会 Council for the Advancement of Standards for Student Services/Development Programs¹⁶で現在も進められている養成教育の標準化への取り組みにも反映されていると考えられるのだが、この点については改めて検討することにした。

5. おわりに

以上の考察をもって、実践家を中心とする学生担当職員によって養成教育が職務分野毎に異なる能力形成を行う場として位置づけられ、それを反映して役に立つことを前提として養成教育の標準化が目指されるようになったことが明らかになった。このような多様性の重視が統一的な学生担当職員像を形成することを困難とし、専門職化の達成にマイナスに働いたといえる。それではなぜ、このような選択がなされたのだろうか。

この時代、学生担当職員は、学生あるいは教員や管理職に対して独自の存在意義を示す必要があった。学生サービス部門の中でも、管理職としては、組織の一員として現実の問題から乖離せずに大学の中で存在意義を確立していくことが、将来の専門職化よりも差し迫って重要であった(McDaniel, 1972)。一方、新しい職務分野の職員にとっては、独自の専門性を主張できる限り問題はなく、他分野との共通のアイデンティティの形成をもって専門職化することには関心が持てなかった。このように異なる方向性を追求する職業集団の中で、統一的な学生担当職員像を形成することは極めて困難であり、多様性を認めた上での標準化を目指すことが現実的であったのである。

それにしても、養成教育の標準化に関する議論は需要の増加に伴って始まり、教育者だけでなく実践家が積極的に関わることで本格化した。そしてそれは専門職化の達成には結びつかなかったものの、職業集団としての存在価値を懸けて行われた。このことを見る限り、大学職員の養成教育に関する議論にあたっては、職業集団としての成立が先決であり、その上で養成教育を含めた能力開発全体の視点に立った議論が必要であると言えそうだ。

本稿では、現実のカリキュラムがどの程度多様であり、それが標準化に対する取り組みと連動して発展していったのかを具体的に明らかにできなかった。こ

の課題については、CAS以後、多様性を認めた上で緩やかな標準化を進めていったその後の流れを踏まえて分析することが妥当であろう。また、養成教育の有効性が各職務分野や大学においてどのように認知されてきたのかを、養成教育の能力開発上の位置づけや採用の際の専門分野での学位の必要性の観点から検証していくことも、今後の課題として指摘できるといえよう。

参考文献

- American Council on Education, 1937, 'The Student Personnel Point of View.' In Whitt, Elizabeth J., Ed., 1997, *College Student Affairs Administration. ASHE Reader Series.*, Massachusetts: Simon and Schuster Custom Publishing.
- APGA Interdivisional Committee (ACES, SPATE, ACPA) ed., 1967, "The Role and Preparation of Student Personnel Workers in Institutions of Higher Learning.", *Journal of College Student Personnel*, vol.8, no.1, pp.62-65.
- Anderson, Gordon V., 1948, "Professional Standards and Training for College Personnel Workers.", *Educational and Psychological Measurement*, vol.8, pp.451-459.
- Barry, Ruth & Wolfe, Beverly, 1957, *Modern Issues in Guidance- Personnel Work.*, New York: Bureau of Publications, Teachers College, Columbia University.
- Commission XII of American College Personnel Association, 1999, *The Directory of Graduate Preparation Programs in College Student Personnel.* (インターネットより入手 <http://www.acpa.nche.edu/c12/directory.htm>).
- Council of Student Personnel Associations in Higher Education, 1969, "Guidelines for Graduate Programs in the Preparation of Student Personnel Workers in Higher Education.", *Personnel and Guidance Journal*, January 1969, pp.493-498.
- Council of Student Personnel Associations in Higher Education, 1975, "Student Development Services in Post- secondary Education", *Journal of College Student Personnel*, vol.16, no.6, pp.524-528.
- Garland, Peter H. & Grace, Thomas W., 1993. *New Perspectives for Student Affairs Professionals: Evolving Realities, Responsibilities and Roles.* (ASHE-ERIC Higher Education Report no.7.) Washington, D.C.: Association for the Study of Higher Education.
- Houston, Clifford G., 1949, "Limited Survey of Professional Standards and Training of College Personnel Workers.", *Educational And Psychological Measurement*, vol.9, pp.445-456.
- Hoyt, D.P., & Tripp, A. Phillip, 1967, "Characteristics of ACPA Members.", *Journal of College Student Personnel*, vol.8, no.1, pp.32-39.
- Larson, Corrine W., 1993, 'Trends in the Regulation of Professions.', in Young, Kenneth E., Chambers, Charles M., Kells, H.R., & Associates, 1993, *Understanding Accreditation*, San Francisco: Jossey- Bass Publishers, pp.317-341.
- McDade, S.A., 1987, *Higher Education Leadership: Enhancing Skills Through Professional Development Programs.* (ASHE-ERIC Higher Education Report, no.5.) Washington, D.C.: Association for the Study of Higher Education.
- McDaniel, Jr. Reuben R., 1972, "Organization Theory and the Preparation of Student Personnel Workers.", *N.A.S.P.A. Journal*, vol.10, no.2, pp.101-105.
- Moore, Shirley Bohs, 1971, "Suggested Courses for the Preparation of Financial Aid Administrators.", *Journal of College Student Personnel*, vol.12, no.2, pp.143-146.
- O'Banion, Terry, 1969, "Program Proposal for Preparing College Student Personnel Workers.", *Journal of College Student Personnel*, vol.10, no.4, pp.249-253.
- Parker, Clyde A., 1966, "The Place of Counseling in the Preparation of student Personnel Workers.", *Personnel and Guidance Journal*, vol.45, pp.254-261.
- Penney, James F., 1969, 'Student Personnel Work: A Profession Stillborn.', in Whitt, 1997, *ibid.*
- Rhatigan, J.J., 1991, 'NASPA History.' in *NASPA Member Handbook*, Washington, D.C.: National Association of Student Personnel Administrators.
- Robinson, Donald W., 1966, "Analysis of Three Statements Relative to the Preparation of College Student Personnel Workers. (Association News)", *Journal of College Student Personnel*, vol.7, no.4, pp.254-256.
- Sawyer, Thomas C., 1970, *Student Personnel Ad-*

- ministration. *The Ohio State University Centennial Histories*, Columbus: Office of Student Affairs, Ohio State University.
- Super, Donald E., 1955, "Transition: from Vocational Guidance to Counseling Psychology.", *Journal of Counseling Psychology*, vol.2, no.1, pp.3-9.
- Tracy, Joseph L., 1971, "The Current Status of Master's Programs in College Student Personnel.", *N.A.S.P.A. Journal*, vol.9, pp.106-110.
- Williamson, E.G., 1958, "Professional Preparation of Student Personnel Workers.", *School and Society*, 86, pp.21-23.
- Wrenn, C. Gilbert & Darley, John G., 1949, 'An Appraisal of the Professional Status of Personnel Work, part I & II.', in Williamson, E. G. ed., *Trends in Student Personnel Work*. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Young, Robert B., 1993, "Examining the History of Student Affairs Through the Lens of Professional Education.", *N.A.S.P.A. Journal*, vol.30, no.4, pp.243-251.

い限り Garland & Grace, 1993 による。

⁶ personnel worker は, guidance counselor よりも広い概念を含むものとして使われることが多かったが, 専門を問わない場合には, counselor という名称が一般には用いられていた。

⁷ 1956年National Association of Women Deans and Counselors(NAWDC), 1972年National Association of Women Deans, Administrators, and Counselors (NAWDAC)に名称変更。

⁸ 1951年 National Association of Student Personnel Administrators (NASPA)に名称変更。

⁹ 1953年度のAGPA理事の3分の1はAPAカウンセリング心理士部門に所属しており, APAとの関連が深かった(Super, 1955)。

¹⁰ Anderson, 1948; Wrenn & Darley, 1949 他

¹¹ 名称変更にあたって, NASPAは幅広い学生サービス管理職を対象とする団体へと性格を変えていた(Rhatigan, 1991)。

¹² Shelden, M., 1965, *A Proposal for Professional Preparation in College Personnel Work*, A First Report of the Commission of Professional Development of the Council of Student Personnel Associations in Higher Educationとして出されたという(Robinson, 1966)。以下、Role & preparation 成立までの経緯は Robinson, 1966による。

¹³ *Personnel and Guidance Journal*, January 1965, pp.538-539(Association Activities)

¹⁴ *Journal of College Student Personnel*, vol.8, no.3, 1967, pp.211-213

¹⁵ 学生経済援助担当官の間では, 「学生経済援助の理論と組織」や「学生への援助調整及びパッケージ」といった運用上の手続きに関する実務的科目が重要視された(Moore, 1971)。

¹⁶ 現在, Council for the Advancement of Standards in Higher Education となっている。

¹ student personnel workers, やstudent affairs professionals と呼ばれる学生サービスの専門家を表す用語として用いる。

² Wrenn & Darley (1949) は, 学生担当職員の専門職性を検討するに当たり, ①選抜と訓練の標準の応用, ②職名と機能の定義, ③特殊化された知識とスキルの所有, ④専門職意識と専門職集団の形成, ⑤入職と業務の標準の自己強制, ⑥職業の法的認知, ⑦倫理綱領の形成, ⑧社会的に必要な機能の遂行を挙げている。

³ 現在 81 の養成課程で約 2500 名が修士課程レベルで学んでいる(Commission XII of American College Personnel Association, 1999)。

⁴ Young, 1993 を参照のこと。

⁵ この項の学生担当職員に関する記述は, 特に断りがな